

日本原子力研究開発機構東海再処理施設の廃止に向けた 現状と今後の対応について

平成29年7月12日
原子力規制委員会

1. 経緯 (略)

2. 東海再処理施設のガラス固化処理の実施状況 (略)

3. 今後の対応
(略)

東海再処理施設等安全監視チームについて

平成28年1月27日
原子力規制委員会

改定：平成29年7月12日

1. 趣旨

- (1) 1月13日、東海再処理施設における高放射性廃液のガラス固化処理の再開について、原子力規制庁から原子力規制委員会に報告があった。その際、ガラス固化処理等については、リスク低減の観点から進めることを原子力規制委員会として認めているものの、新規制基準への適合確認がまだ行われていない東海再処理施設のリスクに鑑みれば、同施設の安全性の確認を、原子力規制委員会として定期的に公開の会合で行っていくべきであるとの指摘を行った。
- (2) 併せて、東海再処理施設については、現在、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）において廃止措置に向けた検討が進められていることに鑑み、廃止措置に向けた安全確保のあり方についても確認していく必要があるとの指摘も行った。
- (3) 更に、その他の JAEA の各施設も含め、高経年化や放射性廃棄物の管理・処理処分が大きな課題となっている現状に鑑み、これらの点についても確認していくべきであるとの指摘も行った。
- (4) このため、東海再処理施設等安全監視チームを設置し、これらの点について継続的に JAEA から聴取し、確認を行う。

2. 取り扱う項目

- (1) 東海再処理施設等の安全確保の状況
 - ① 高放射性廃液のガラス固化等に係る安全確保の状況
 - ② 新規制基準適合申請に向けた検討状況
 - ③ 廃止措置に係る安全確保の在り方（廃止措置計画の審査を含む）
 - ④ 高経年化対策・放射性廃棄物管理等
- (2) その他

3. チームの構成

- (1) 別紙のとおりとする。
- (2) 必要に応じて、メンバー以外の者に出席を求めることとする。

4. 会合の進め方

- (1) 会合は、原則公開で行う。
- (2) 安全確保等に関する取組内容については、JAEA 等が説明を行う。

5. 今後のスケジュール

今年度中に第1回会合を開催し、以後、JAEA のガラス固化や安全確保等に係る進捗状況等を踏まえ、年数回程度の頻度で継続的に開催する。

(別紙)

東海再処理施設等安全監視チーム 構成メンバー

(敬称略)

原子力規制委員会

田中 知 原子力規制委員会委員

原子力規制庁

青木 昌浩 長官官房審議官

片岡 洋 安全規制管理官(核燃料施設等監視担当)

宮脇 豊 研究炉等審査部門安全管理調査官

(併) 核燃料施設審査部門

(併) 核燃料施設等監視部門

松本 尚 核燃料施設等監視部門管理官補佐

(併) 核燃料施設審査部門

吉田 利幸 核燃料施設等監視部門主任監視指導官

(併) 核燃料施設審査部門

(その他関係職員)

※説明者として JAEA の出席を求めるほか、オブザーバーとして文部科学省にも
会合開催を案内する。

※必要に応じて、適宜メンバーの追加等を行う。